

「経年比較」について

授業改善推進プランでは、同一学年の「経年比較」を大切にしています。

中学校に入学した生徒たちの学力が、学年をあげるにしたがってどう推移したかを見ることで、改善の方策が妥当であるかどうかを判断するためです。

また、授業改善推進プランでは、「平均点」を経年比較するのではなく、「達成率（＝目標値を達成した生徒の割合）」を経年比較しています。

東京都教育委員会の「学力・学習状況調査結果分析」では、平均点ではなく、達成率の上昇が重要であるとされています。

熱心に学習に取り組む中学生が多くいる一方、学習に意欲を持ってない中学生も少なくないという、「二極分化」の傾向が課題となっているからです。

馬込中学校でも、学力の「二極分化」を起こさないよう、1人でも多くの生徒が意欲的に学習に取り組めるよう、授業改善に努めます。

大田区では、経年比較のみ具体的な数値を記載します。（「昨年度から5%上昇している」など。）達成率や平均点自体は、文章表記となります。

○達成率：「非常に高い」「高い」「標準」「低い」「非常に低い」の5段階

○平均点（観点別）：「大きく上回っている」「上回っている」「標準」「下回っている」「大きく下回っている」の5段階



国語科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・意見文の発表をとおして、課題解決のための思考力、情報を精査するための判断力、考えを文章化しスピーチとして伝える表現力の育成に取り組むことができた。
- ・他者の考えを踏まえて自分の考えを練り直すことで、関心を高めたり視点を広げて考えたりすることができた。

(2) 課題

- ・漢字、文法、聞き取り問題の小テストを実施し、基礎知識の定着を図る。
- ・発表や話し合い活動を充実させ、円滑なコミュニケーションがとれるようにする。
- ・自らの生活と関連させて学習内容を捉え、考えや想像を深める力を身に付ける。
- ・各題材に応じた作文を継続し、的確な読み取りや適切な表現を定着させる。
- ・活動と評価を適切に結びつけ、学習意欲の向上、学習習慣の定着につなげる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	非常に高い。		
第2学年	高い。昨年度から2.9%上昇している。	高い。	
第3学年	高い。昨年度から0.2%上昇している。	高い。昨年度から1.8%上昇している。	高い。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
上回っている	大きく上回っている	上回っている

② 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
上回っている	大きく上回っている	標準

③ 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
大きく上回っている	上回っている	上回っている

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
漢字ノートを活用して、定期的に漢字テストを行う。小学校で習得した漢字を含め、繰り返し練習に取り組む。読み・書き・意味をセットにして漢字の定着を図る。	事実と意見を読み分け、筆者の考えとその根拠を的確に捉え、読解力の向上を図る。定期的に要約文や小作文に取り組み、正確に文章を書く力を養う。	考える手段・方法について手順を追って取り組んで学ぶ。話し合い活動等で伝え合う楽しさ味わわせ、前向きに学習に取り組む姿勢を養う。自身の生活との関連を意識して取り組めるように、授業の展開を工夫する。

（2）第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
意味や字形を意識した漢字の読み書きや口語文法の定着を目指し、小テストを継続して行う。根拠を明確にして文章を読む力を身に付ける授業展開を行う。	根拠に基づいて文章を解釈する力を養う。作文や意見文発表をとおして、相手に分かりやすく伝えたり読み取ったことと自分の考えを分けて書き表したりする学習を繰り返す。	学び得た技能を実践できる学習を増やし、授業内容と自身の生活を関連させて自分の考えをわかりやすく表現しようとする姿勢を養う。

（3）第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
各単元における復習と小テストを継続し、漢字の読み書きや敬語表現など基礎知識の定着を図る。歴史的仮名遣い等古文の基礎は、音読活動を行うことで身に付ける。	図表や参考文献と併せて題材となる文章を読み解き、知識や経験と結び付けて自分の考えをまとめる学習を継続する。作文や話し合い活動、聞き取り問題をとおして思考力を養う。	題材と関連させて自分の考えを深めようとする粘り強い姿勢を育むために、題材について自身の生活と関連させて考え、表現し合う場面を増やしていく。

社会

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・2年に地理的分野でレポート作成、発表などの活動を行ったことで、主体的に学習する態度の観点の数値が向上した。
- ・歴史において、資料を読み取る力とそれを表現する力を磨くことが必要であったので、授業内で積極的に資料提示を行い、生徒にイメージをもたせることができた。

(2) 課題

- ・多面的・多角的に考察し、表現する力を養うために、ICTを活用したグループワークや発表の場を設け、課題解決の力を養っていく。
- ・世界の諸地域や日本のついで産業、貿易について、図やグラフ・写真などの資料を使い読解力を養っていく。
- ・タブレットを活用し、授業の復習的な問題を授業当日に出題し解答させることにより、知識の定着を図る。特に2年生に関しては、出題回数を増やすことで正答率の向上を図る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	標準。		
第2学年	標準。昨年度から15.6% 下降した。	標準。	
第3学年	標準 昨年度から1.3% 上昇した。	標準。昨年度から14. 1%下降した。	高い

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
標準	標準	標準

② 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
標準	標準	標準

③ 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
標準	標準	標準

3 授業改善のポイント（観点別）

（１）第１学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・歴史・地理両方とも複数の資料を活用し、習得した知識と結びつけられるような問題を授業内で出題する。 ・語句の意味や位置の理解に課題が見られたので、家庭学習を通して定着を図る。 ・前時の復習テストを行い、知識の定着を図る。	・自分の意見の立場や根拠を明確に表現する活動を授業で取り入れる。 ・タブレットを活用し、生徒同士の考え方を共有することで、表現力の向上を図る。 ・定期考査の問題を活用し、思考力・判断力・表現力の定着を確実にしていく。	・主体的に学習に取り組む態度に違いが見られるので、ICT教材を活用しながら、生徒全員が興味をもてるように授業を展開する。 ・生徒が興味を持ちそうな身近な課題についてのレポート作成を通して主体的に学習に取り組む態度を育成する。

（２）第２学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・歴史・地理両方とも複数の資料を活用し、習得した知識と結びつけられるような問題を授業内で出題する。 ・語句の意味や位置の理解に課題が見られたので、家庭学習を通して定着を図る。 ・前時の復習テストを行い、知識の定着を図る。	・自分の意見の立場や根拠を明確に表現する活動を授業で取り入れる。 ・タブレットを活用し、生徒同士の考え方を共有することで、表現力の向上を図る。 ・定期考査の問題を活用し、思考力・判断力・表現力の定着を確実にしていく。	・主体的に学習に取り組む態度に違いが見られるので、ICT教材を活用しながら、生徒全員が興味をもてるように授業を展開する。 ・生徒が興味を持ちそうな身近な課題についてのレポート作成を通して主体的に学習に取り組む態度を育成する。

（３）第３学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・正しく語句を記入することに課題が見られたので、授業で正確な文字・漢字を書けているか確認することで定着を図る。 ・場所や位置に関する知識が不十分である生徒もいたので、地図帳やタブレットを使用して確実に定着させていく。 ・前時の復習テストを行い、知識の定着を図る。	・知識を語句として捉えることが多く、文章として表現することに課題が見られたので、グループでの話し合い活動等を取り入れ、他人の考えから、自分の考えを適切に文章化できるようにする。 ・タブレットを活用し、生徒同士の考え方を共有することで、表現力の向上を図る。	・主体的に学習に取り組む態度に違いが見られるので、ICT教材を活用しながら、生徒全員が興味をもてるように授業を展開する。 ・生徒が興味を持ちそうな身近な課題についてのレポート作成を通して主体的に学習に取り組む態度を育成する。

数学科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・3年生では、領域を横断した複合問題に多く取り組ませることにより、既習事項を活用する力を向上させることができた。
- ・2年生では、演習問題に多く取り組ませることで、基礎的・基本的な計算を定着させることができた。

(2) 課題

- ・第1学年は「小数・分数の計算」「面積と体積」「平面図形」「平均・場合の数」に課題がある。
- ・第2学年は「1次方程式」「文字式」に課題がある。
- ・第3学年は「1次関数」に課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	高い。		
第2学年	非常に高い。昨年度から4.8%上昇した。	高い。	
第3学年	昨年度から13.4%下降したが、高い。	高い。昨年度から10%上昇した。	高い。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
上回っている	標準	標準

② 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
大きく上回っている	上回っている	上回っている

③ 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
上回っている	上回っている	上回っている

3 授業改善のポイント（観点別）

（１）第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
途中式、図形、表、グラフなどを具体的にノートに書かせるという指導を通して、問題のポイントや図形の特徴の把握などの力を伸ばせるよう指導をさらに工夫していく。基礎・基本的な知識の定着を図るための問題を数多く用意し、演習を通じて自信をつけさせていく。	より多くの課題に取り組ませ、問題解決の楽しさを味わえるようにする。さらに、実体験に基づく規則性や法則性について考察するよう指導を工夫する。また、自分の考えについて説明し発表する問題を継続する。また、授業開始時のウォーミングアップとして、既習事項の復習問題や発展問題にも取り組ませ、思考力・表現力を育てている。	単元が終わるごとに、その単元の要点やポイントをレポートにまとめさせている。教科書の内容だけでなく、自分がポイントである箇所を把握することで、より深い学びにつなげることができる。考える。また、単元テストや定期考査の解き直し、振り返りレポートも指導し、自己を調整する力を身につけさせている。

（２）第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
教科書に載っている基礎・基本的な問題だけでなく、問題集等を活用し、発展的な問題にも多く取り組むことで、様々な問題に対応できるよう指導している。また、演習問題に多く取り組ませることにより、知識の定着を図る。	問題提示の際に、ICTを活用して問題の理解を深めさせ、自力解決の時間を多くとることににより、生徒が自分自身で考える時間を増やし、思考力を高めさせる。また自分自身で考えたことを他者に説明させる場面をつくり、表現力を高める。	毎授業で「振り返り」の時間をとり、本時で何を学んだのかを振り返る時間を設定している。授業の振り返りを行うことにより、そこで生まれた疑問点や復習すべきだと思った内容について主体的に学習する生徒が増えてきている。

（３）第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
教科書に載っている基礎・基本的な問題だけでなく、問題集を活用し、演習問題に多く取り組ませることにより、知識の定着を図る。特に、計算問題については、途中式を常を書くよう指導し、どこで間違えてしまったのか見返すよう指導している。	問題提示の際に、ICTを活用して問題の理解を深めさせ、自力解決の時間を多くとることににより、生徒が自分自身で考える時間を増やし、思考力を高めさせる。また、生徒同士での比較検討の時間を取り入れることで、数学的な表現を使って、他者に説明する場面をつくり、表現力を高める。	「授業振り返りシート」を活用し、毎授業ごとに生徒自身がその1時間の授業の中でどのようなことを学んだのかを振り返る時間を設定している。授業の振り返りを行うことにより、そこで生まれた疑問点や復習すべきだと思った内容について主体的に学習する生徒が増えてきている。

理科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・3年生では、振り返りの問題演習や小テストの実施により、基礎的・基本的な知識を定着させることができた。また、少人数でのグループワークや、プレゼンテーションを行うことで、思考・判断・表現する力が身につき、既習事項を活用する力が向上した。
- ・2年生では、実験や観察を多く取り入れたことにより、理科に対する興味・関心を高めることができた。

(2) 課題

- ・3年生は、自然の事物・現象を科学的な視点でとらえ、定性的に理解することは得意であるが、実験や観察の結果を科学的に分析し、定量的に扱うことを苦手とする傾向がある。また、時間経過とともに前年度までの学習内容が薄れてきてしまっていることが課題と言える。
- ・2年生は、基礎的・基本的な知識の定着が不十分であることが課題である。問題演習や小テスト等を繰り返し行うことで、学習に粘り強く取り組む態度を養い、知識の定着を図る必要がある。また、適切な課題を設定し、グループワーク等を行うことで既習事項を活用し、思考・判断・表現する力を養う必要がある。
- ・1年生では、基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題がある。また、自然の事物・現象を科学的な視点でとらえ、思考・判断・表現する力を身につける必要がある。また、観察・実験を多く取り入れることで、観察や実験の基礎的・基本的な技能を定着させるとともに、理科に対する興味・関心を高める必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	高い。		
第2学年	昨年度から 16.0% 下降したが標準。	高い。	
第3学年	昨年度から 4.0% 減少したが高い。	高い。	高い。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
下回っている	上回っている	標準

② 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
下回っている	標準	標準

③ 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
標準	標準	標準

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・問題演習や用語テスト等を繰り返し行い、基礎的・基本的な知識の定着を図る。 ・実験・観察を多く取り入れ、基本操作の定着を図る。	・実験、観察の結果を活用し、思考する場面、話し合い活動等の対話的な学びを通して、科学的に探究する力を身につけさせる。	・実験・観察等の体験的な学習を多く取り入れ、ICT機器を有効に活用しながら自然の事物・現象や日常生活を科学的に探究しようとする態度を養う。

（2）第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・問題演習や小テスト等を繰り返し行い、基礎的・基本的な知識の定着を図る。 ・前年度までの学習内容を2年生の内容と関連付けながら、定期的な問題演習を行うことで既習事項の確実な定着を図る。	・ICT機器を活用し、目に見えない現象を視覚的に捉えさせ、科学的な思考を養う。 ・探求学習を通し、自然の事物・現象を科学的に捉え、課題解決に向かう力を身につけさせる。	・実験・観察等の体験的な学習を多く取り入れ、自然の事物・現象や日常生活を科学的に探究しようとする態度を養う。 ・既習事項の振り返りを定期的に行い、自己の学習を調整する態度を養う。

（3）第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
・問題演習や小テスト等を繰り返し行い、基礎的・基本的な知識の定着を図る。 ・前年度までの学習内容を3年生の内容と関連付けながら、定期的な問題演習を行うことで既習事項の確実な定着を図る。	・ICT機器を活用し、目に見えない現象を視覚的に捉えさせ、科学的な思考を養う。 ・グループワークやプレゼンテーションを通し、実験や観察の結果を科学的に分析し、定量的に捉える力を身につけさせる。	・実験・観察等の体験的な学習を多く取り入れ、自然の事物・現象や日常生活を科学的に探究しようとする態度を養う。 ・既習事項の振り返りを定期的に行い、自己の学習を調整する態度を養う。

英語科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 本文の内容について、その背景にあるものを読む前に学習することで、興味・関心をもって読もうという意欲を養うことができた。
- 協働学習を基本とした活動を展開することで、相手が分かるように発話をしようとする思考力や英語で話そうとする表現力を養うことができた。
- 単元テストや単語テストを通して、基礎知識の定着を図ることができた。

(2) 課題

- 会話や英作文など、新出のものだけではなく既習内容も活用した活動を行い、復習しながら学習が進められるようにしていく。
- 思考力や表現力向上のために発表場面や英作文を多く取り入れ、相手を意識した内容構成ができるように工夫する。
- 教科書の新出単語練習や音読練習を通して音と文字を結び付けると同時に、「読めた」「できた」という意欲的な気持ちを育て、主体的に学習しようとする態度を育成していく。
- 読解力養成のために、大きな枠組みでの内容理解から精読へと段階を追って理解できるように、プリントを工夫していく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	非常に高い。		
第2学年	昨年度より8.8%下降したが、非常に高い。	非常に高い。	
第3学年	昨年度より1.6%下降したが、非常に高い。	昨年度より8.7%下降したが、非常に高い。	非常に高い。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
大きく上回っている	大きく上回っている	上回っている

② 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
大きく上回っている	大きく上回っている	大きく上回っている

③ 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
大きく上回っている	大きく上回っている	大きく上回っている

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
新出単語の定着を図るため、授業内で単語トレーニングを行い、意味とスペルを紐づけられるようにする。 文法事項は練習問題を多くし、知識を習得することと同時にポイントとなる英文を提示し、暗唱することで基本的な形を定着できるようにしていく。	授業内ではペア・グループ活動を充実させ、英語で自分自身のことや身の回りのことを表現することにより、表現力を伸ばさせていく。 長文読解では、話の全体の流れを確認し、読解問題の一助とする。また、読解後も本文を活用して思考力を育成できるように、英語での話し合い活動を行っていく。	生徒が興味のあるものを活用し、文法事項が身近なものに感じられるように工夫をしていく。 生徒一人一人が「分かる」「できる」を感じられるように、ワークシートの工夫、クラスメイトとの英語での会話、ALT との対一のインタビュー、身の回りのことを表現する英作文等活动を多く取り入れていく。

（2）第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
文法の基本事項を定着させるために、練習問題を多く取り入れ、同じパターンの英文に慣れたいけるようにする。 ビンゴで同じ単語に何度も触れさせることで、単語の発音とスペルを定着できるようにする。	実際にある建物や施設を使って会話することで、実生活の中でも活用できる表現力を養っていく。授業で1分間の会話を行い、基本的な応答を学んでいくと同時に、自分が話した内容を英文で書くことで、思考力も同時に養っていけるようにする。	ペアでの協働学習を通して、積極的にクラスメイトと関わり、意欲的に学習していこうという態度を育てていけるように活動的な授業を展開していく。長文読解では徐々に社会的な内容が増えてくるので、その話の背景にあるものを学習することで、興味関心をもちながら読んでいけるようにしていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
単語指導の際に派生語や対義語等も確認し、生徒の語彙力を高める指導を行っている。文法事項は、文法ドリルを帯活動で行い、基本文の形を定着させている。また、何度も同じような問題に触れさせ、活用の仕方を理解できるようにしている。	「1分間チャット」を通して、自分の意見を即興で応答する練習をしている。また、各単元に関するトピックで自分の意見を英語で表現する活動を行い、発信力の向上を図っている。長文読解では、100語程度の英文を読みとる活動を毎時間行い、長文の概要を即時に読みとる力を養っていく。	A L Tと一対一で英会話する機会を授業内で多く取り入れ、コミュニケーションに対する意欲の育成を図っている。また、単元ごとに、既習の表現を使って自分の意見を書き、発表することで、実践的コミュニケーション能力の育成を図り、意欲的に学習する力を育てている。

音楽科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・授業に対する関心・意欲・態度が良好である。

(2) 課題

- ・表現の創意工夫に関しては、理解したことを演奏に組み入れることが課題である。
- ・表現の技能に関しては、より豊かな表現力を身につけることが課題である。

2 授業の状況、定期考査の結果等からの学力分析

(1) 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
歌唱表現に必要な姿勢、発声などの基本となる力が身につけていない。器楽で基本運指ができていない生徒がいる。 基礎・基本の定着に欠ける。	楽曲内容を知識として理解しているが、それを演奏で表現することはまだ十分でない。	聴く、書く、読む、歌う、吹くという流れにのれない生徒がいる。ワークシートの記入などの活動を通して多様な音楽の良さや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てたい。

(2) 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
歌唱表現に必要な姿勢、発声などの基本となる力が身につけてきている。器楽で基本運指ができていない生徒がいる。	創意工夫、音楽表現のために必要な知識・理解が十分ではない。	どの課題も落ち着いてよく取り組んでいる。その曲に対する理解・知識は全体的に高い。ワークシート記入などの活動により成果が表れている。

(3) 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
歌唱表現に必要な姿勢、発声などの基本となる力が身につけてきている。器楽で基本運指ができてきて、応用がきくようになってきている。	楽曲内容を知識として理解してきている。それを演奏で表現することをしようという意欲が出てきている。	基礎・基本の定着に欠ける生徒が若干いる。集中して授業に取り組む姿勢が身につけてきた。鑑賞曲から何を学び、何を感じ取るのか、注目する点を理解できるようになってきた。

3 授業改善のポイント（観点別）

（１）第１学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
興味深く体験できる基礎発声や基本運指を毎授業で繰り返し練習し、基礎・基本の習得を図る。 授業内容と目標を明確に伝える。	実技表現への苦手意識をもつ生徒たちへの自尊意識を高める指導をする。 歌唱の内容を感じ取り、表現を工夫して歌うように指導する。	歌唱・器楽・鑑賞・提出物に至るまで、ひとつひとつ確認しながら進めていく。 音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。

（２）第２学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
多様な音楽の良さや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。	歌唱の活動を通して、歌詞の内容を感じ取り、表現を工夫して歌う。	興味深く体験できる基礎発声や音楽の基本を毎授業繰り返し、基礎・基本の習得を図る。

（３）第３学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
器楽の活動を通して、器楽の特徴をとらえ、基本的な奏法を身につけて演奏する。 わかりやすい説明、ワークシートや視聴覚機器の活用により関心を高める。	多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身につけ、創意工夫して表現する能力を育てる。	集中して授業に取り組む姿勢が必要である。 鑑賞教材は我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導に適切なものを扱う。

美術科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・各課題へ意欲的に取り組み、美術への関心も高くなった。
- ・技能を身に着け、よりよく制作しようという積極性がある。

(2) 課題

- ・各自が目標に到達できるよう根気よく導く。
- ・意欲、自信が持てない生徒へ根気よく指導する。

2 授業の状況、定期考査の結果等からの学力分析

(1) 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
個人差はみられるが、基礎的な理解力がみられる。	自ら思考、判断、表現しようという力が見られる生徒が多い。	課題を理解し、意欲的に取り組むことができる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識、技能が身につけている生徒が多く、創作活動の中で実行できている。	自ら思考、判断、表現できる生徒が多いが、不得意生徒への指導が必要。	課題を理解し、意欲的に取り組むことができる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識、技能を身につけ、創作活動の中で実行できている。	思考、判断、表現の得意な生徒が多いが、不得意生徒の指導が必要。	全体的に、意欲的に熱心に取り組んでいる。課題によっての関心、意欲の持てない生徒もいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（１）第１学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識、技能を身につけ、理解しているが、追いつけていない生徒への丁寧な指導、導きを行う。	発想、表現を楽しんで取り組める生徒が多いので、さらに達成する喜びを味合わせるよう導いていく。	意欲的に取り組み、熱心に創作活動できる。さらに、美術を愛好する心を育てていく。

（２）第２学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識、技能を理解し、身につけている生徒が多い。さらに出来る喜びを味合わせていく。	すすんで思考、発想、表現しようとする生徒が多い。さらに楽しみながら表現活動できるように導いていく。	意欲的に取り組み、熱心に創作活動できるが、集中力が定着しない生徒へも粘り強く導いていく。

（３）第３学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
知識、技能を生かして創作活動できるようになった。さらに、知ること、出来ることを楽しむように導いていく。	思考、判断、表現活動が得意な生徒が多い中で、不得意な生徒もみられる。根気よく、達成する喜びを味合わせていく。	熱心に取り組める生徒が多いが、意欲に欠ける生徒への粘り強い指導も必要。個々の生徒の性質をよく見て、丁寧に導いていく。

保健体育科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・自己の課題を見つけ、その解決に向け必要な練習方法を考える力を身に付けさせることに取り組んできた。個々で目標設定をさせ、課題解決に向けての練習を考えながら、技術向上を目指すことができた。
- ・コロナウイルスによる行動制限が緩和されたことにより、グループワークを増やし、自己や仲間の良さや課題を見つけ、伝える時間を設けることができた。

(2) 課題

- ・個々の体力を向上させるために、運動量を増やす。
- ・生徒の得意・不得意に関わらず、意欲的に取り組めるよう授業展開を工夫する。
- ・ICTを活用して、よりグループワークを増やす。

2 授業の状況、定期考査の結果等からの学力分析

(1) 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方について、意欲的に理解しようと努めている生徒が多い。その一方で、基本的な体力や技能には差がある。また、授業内でのルールや約束事を守る意識を高め、安全な行い方について学習している。	自己課題を発見し、その解決に向けて自己や仲間の考えをワークシートに記入したり、グループワークで他者に伝えたりする学習をしている。しかし、ワークシートの提出ができない生徒がいる。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、他者を認め合う態度を養い、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている生徒が多い。

(2) 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意方法について学習しているが、定期考査の結果を見ると定着は不十分なところもある。また、各運動の特性に応じた基本的な体力や技能に差が見られる。	自己課題を発見することはできても、合理的な解決に向けて課題に応じた運動を工夫することは難しい。自己や仲間の考えたことを他者に伝える学習として、グループワークやワークシートの活用をしている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任などに対する意欲をもち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている生徒がいる一方で、運動に対して苦手意識をもつ生徒もいる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
各運動の技の名称や行い方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての方法や、スポーツの意義についての考え方については一定の理解が定期考査の結果から見られる。運動の基本的な技能はある程度身に付いているものの、応用や体力の高め方については課題がある生徒もいる。	生涯にわたって運動を豊かに実践するために自己や仲間の課題を発見し、合理的な課題解決に向け、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた組み合わせ方を学習し、グループワークやワークシートを活用しながら自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる生徒が増えてきた。	仲間と協力しながら、運動の楽しさや喜びを味わおうと意欲的に取り組むことができる。また、苦手意識のある生徒もいる中、公正、責任、共生などを養い、健康・安全に留意しながら、学習に積極的に取り組む生徒も多い。

技術・家庭科

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・技術・家庭科への興味関心をもちながら、意欲的に活動することができている。
- ・生活に必要な基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、課題に取り組むことができている。
- ・適切な道具の使い方や安全への配慮等ができるようになってきた。

(2) 課題

- ・学んだことと生活とを関連させながら、自分の考えを表現することの定着を図る。
- ・社会の中での課題と学習したことを関連できるよう、自分の考えを表現したり、友達の考えから新たな考えを生み出したりする力を育てていく。

2 授業の状況、定期考査の結果等からの学力分析

(1) 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
生活と技術について理解が深まるよう、身近なことなどに関連させながら知識の定着を図ったり、技能が身につくよう繰り返し取り組めるようにしたりする。	学習した知識や技能を生活の中に生かせるよう、グループでの話し合いの場を設け、個々が自分の考えを構築し、発信できるようにする。 出来上がった作品をどのように使うと豊かな生活ができるか考える場面を設ける。	見通しをもちながら、計画的に作品作りなどができるようにしていく。

(2) 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な知識の定着が十分ではないので、適切な道具の使い方や周囲への配慮ができるよう、道具や材料の特性を理解しながら作業できるようにしていく。	学んだことを生かして自分の考えを表現することが苦手であるので、グループでの話し合いの場を設け、個々が自分の考えを構築し、発信できるようにする。	教科に対する関心は高いが、授業への取り組み方や姿勢で課題が見られるので、世の中の問題や課題と関連させ、自分事として捉えられるようにしていく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
基礎的・基本的な知識の定着が十分ではないので、適切な道具の使い方や周囲への配慮ができるよう、道具や材料の特性を理解しながら作業できるようにしていく。	学んだことを生かして自分の考えを表現することが苦手であるので、グループでの話し合いの場を設け、友達の意見を参考にしたり、比較したりしながら、自分の考えを再構築し、発信できるようにする。	教科に対する関心は高いが、授業への取り組み方や姿勢で課題が見られるので、世の中の問題や課題と学習したことを関連できるように、自分事として捉えられるようにする。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
生活や社会の中から問題を見出して課題を設定して解決する力を身につけさせる。	課題学習や体験学習を多くし、問題を魁夷結する力を身につけさせる。	授業規律の徹底を図り、より学びを深められる環境作りに努める。その中で生徒の自主的な活動を促す指導を行う。

(2) 第2学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
機器や機材を効果的に活用する。とくに基礎的・基本的な内容を重視し、丁寧に重点事項を説明する。適切な難易度の課題を導入し、より高い技術の習得を目指す。	活発に表現する姿勢はさらに伸ばす指導を行う。自らの意見をまとめ、記述や発表などで表現する機会を多く取り入れる。	授業規律の徹底を図り、より学びを深められる環境作りに努める。その中で生徒の自主的な活動を促す指導を行う。

(3) 第3学年

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
機器や教材を効果的に活用する。とくに基礎的・基本的な内容を重視し、丁寧に重点項目を説明する。安全への意識を重点的に指導し、道具の特性を理解しつつ安全に使用する力を養う。	活発に表現する姿勢はさらに伸ばす指導を行う。学んだことを活用する機会を積極的に作り、制約条件がある表現活動を多く取り入れる。	授業規律の徹底を図り、より学びを深められる環境作りに努める。その中で生徒の自主的な活動を促す指導を行う。